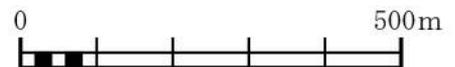


△ 周辺住居地域等における最大着地濃度地点

単位：ppm



大阪市「マップナビおおさか」を使用

図 5-2-9 施設供用時の窒素酸化物寄与濃度（年平均値）

b . 浮遊粒子状物質

施設の供用により発生する排出ガスによる、浮遊粒子状物質（SPM）への影響の予測結果は表 5-2-16 に示すとおりである。また、周辺地域における寄与濃度（年平均値）は図 5-2-10 に示すとおりである。

施設の供用による浮遊粒子状物質（SPM）の寄与濃度の周辺住居地域等における最大着地濃度地点は、事業計画地東側住居地点となり、最大着地濃度の年平均値は  $0.00001\text{mg}/\text{m}^3$  となると予測される。

また、浮遊粒子状物質（SPM）の日平均値の 2% 除外値は、最大で  $0.055\text{mg}/\text{m}^3$  となり、環境基準値を下回ると予測される。

表 5-2-16 施設の供用により発生する排出ガスの予測結果（浮遊粒子状物質）

予測時期	予測対象	浮遊粒子状物質（SPM）年平均値			日平均値の 2%除外値 ( $\text{mg}/\text{m}^3$ )	環境基準値
		寄与濃度の 最大着地濃度 ( $\text{mg}/\text{m}^3$ )	バック グラウンド 濃度 ( $\text{mg}/\text{m}^3$ )	環境濃度 ( $\text{mg}/\text{m}^3$ )  (= + )		
施設 供用時	周辺住居 地域等	0.00001	0.022	0.02201	0.055	1 時間値の 日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下である こと

注：1. 寄与濃度の最大着地濃度は、事業計画地周辺の住居地域等において着地濃度が最大となる住居地点における濃度である。

2. バックグラウンド濃度は菅北小学校局の平成 27 年度年平均値とした。